

## 倫理委員会審議内容

令和2年12月4日開催

No.1	申請者：非常勤客員臨床研究員 栗原 雄大	
課 題	アルコール依存症の個別性に関する研究	
研究の概要	<p>外来にてアルコール依存症の治療を受ける患者400名を対象とした、気質、気分症状、飲酒行動パターンの調査を受診時に行う。評価尺度として、混合性病像にはDMX-12(12項目)、抑うつ症状にはQISD-SR(16項目)、病前気質にはTEMPS-A/MPT(34項目)、飲酒行動パターンにはDrinking patterns-20(20項目)を用いて、診断、患者背景、疾病関連因子および予後との関連性について解析する。</p>	
判 定	承認	承認期間 令和3年3月31日から令和7年3月31日に延長
利益相反審査判定		承認

No.2	申請者：非常勤客員臨床研究員 栗原 雄大	
課 題	アルコール依存症の個別性および予後に関する研究	
研究の概要	<p>入院にて3ヶ月のアルコールリハビリテーションプログラムを受けるアルコール依存症の患者200名を対象とし、入院時に、気質、気分症状、失感情症、飲酒行動パターン調査を行い、気分症状に関しては2週間ごとに評価を行う。認知機能検査に関しては、第5週に行う。退院後半年、1年度に飲酒状況や生活状況などの追跡調査を行う。評価尺度として、混合性病像にはDMX-12(12項目)、抑うつ症状にはQISD-SR(16項目)、病前気質にはTEMPS-A/MPT(34項目)、失感情症にはTAS-20(20項目)、飲酒行動パターンにはDrinking patterns-20(20項目)を用いる。認知機能検査には、BACS-J、アイオワギャンブリング課題を行い、診断、患者背景、疾病関連因子および予後との関連性について解析する。</p>	
判 定	承認	承認期間 令和3年3月31日から令和7年3月31日に延長
利益相反審査判定		承認